

平成23年度第2回 読書のまち八王子推進連絡会議 会議録

日時 平成23年8月25日(木) 午後6時00分～8時43分

場所 八王子市中央図書館 3階 会議室

出席者氏名

委員 三浦 眞一 斉木 治枝 小林 恵子 鈴木 康弘
大東 有希 大橋 道代 黒田 八千代 遠藤 護人
草刈 あずさ 山崎久道

欠席委員 吉沢 淳 斉藤 和巳 森田 聖二 常盤 義輔
事務局 望月中央図書館長 中村生涯学習センター図書館長
玉木南大沢図書館長 田中川口図書館長
中央図書館 大宮主査 一杉主査 樋口主査
南大沢図書館 太田主査 新井主査

傍聴人 1 人

開会

事務局(田中川口図書館長)～本日はお忙しいところ平成23年度第2回読書のまち八王子推進連絡会議にご出席いただきましてありがとうございます。

それでは、これより、読書のまち八王子推進連絡会議の進行を三浦会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

三浦会長～本日の会議につきましては、過半数の委員のご出席をいただいておりますので有効に成立しております。

吉澤委員、斉藤委員、常盤委員、森田委員は所用のため、どうしても出席できない旨の連絡がございました。

三浦会長～傍聴人1名いらっしゃいますが、第二次読書のまち取組状況、評価については教育委員会も非公開でやっておりますので、この案件のみ非公開とさせていただきます。

議事録署名委員は黒田委員にお願いいたします。

(黒田委員の了承があった)

三浦会長～ それでは最初に新委員についてご紹介いたします。

事務局(田中川口図書館長)～資料1をご覧ください。本年3月31日に高尾山学園を定年退職いたしました野口委員の後任といたしまして、元八王子小学校の校長先生であります、吉澤淳校長先生が委員に就任されました。本日は学校行事の関係で欠席でございますが、よろしくお願い申し上げます。

三浦会長～ありがとうございました。

それでは会議資料の確認をお願いします。

事務局（新井南大沢図書館主査）～おそれいりますが、お手元の配布資料の確認をお願いします。

資料1. 読書のまち八王子連絡会議名簿

資料2. 平成22年度読書のまち八王子推進計画の取組状況の点検・評価について

資料3. 平成23年度読書のまち八王子推進計画の取組目標等について

資料4. 出張図書館について

資料5. 読書感想画コンクールの実施について

資料6. 自動応答電話サービスの開始について

資料7. 平成22年度図書館統計について

参考資料として

- ・図書館大会
- ・「八王子手づくり絵本の会」の新聞記事
- ・らいぶらりいー八王子市図書館報

以上ですが、不足などありましたらお申し出下さい。

（ 資料の確認が行なわれた ）

三浦会長～資料の確認はよろしいでしょうか。

それでは会議に入ります。まず、議題1「平成22年度読書のまち八王子推進計画の取組状況の点検・評価について」を議題に供します。

本件については、前回の会議において皆様のご意見をお伺いしまして、本日は、事務局においてそのとりまとめをいたしましたので、もう一度各委員さんにご確認をいただきたいと思えます。

22年度の取組状況について、一括して事務局から説明願います。

事務局(田中川口図書館長)～先日お送りしたので一通りお目通しいただいたと思いますが、その際に修正をかけた旨については添付の文書としてお送りしています。本日はこれについて文書として固め、のちに公表したいと考えています。公表の方法としては図書館に文書として備えることとホームページに公開をすることと考えています。

修正になった項目について、個表1ページ、地区図書室の分室化について、前回の会議を踏まえ文章を少々削除しました。システム～をとり、専門部会の開催もあったので、そちらを追加しました。4ページ書店とのリンクについて、一番下の段の今後の方向性の下から3行目、「実現に向けた課題整理を行う」とさせていただき、とともに「事業化の取り組みを進める」について削除をお願いいたします。削除の理由について、整理する課題の内容についてもまだま

だ不明確なところがあり、事業化については時期尚早と判断したので削除をお願いします。修正理由はあえて記載しなくてもいいのではないかということもあり、必要ないものは削除させていただいて文章を作りました。結果書店とのリンクについては、新システムでは可能になっているが、課題もあることから実現に向けた課題整理を行うとさせていただきます。

5 ページインターネットによる来館が困難な方に対する情報提供について、こちらも今後の方向性を修正しました。6 番目の図書館という文章が入っていましたが、正当と認めることができないという状況にありますので、インターネット情報のあり方について、十分な研究・検討をするという内容にいたしました。7 ページ社会福祉施設等への出張図書館について、自己評価を修正いたしました。文章を整理し、簡潔な表現にいたしました。8 ページ、学校図書館活動を担うスタッフの配置の推進について、スタッフについて事務局のほうでもスタッフが図書館サポーターの人と勘違いをしているところもあり、実態としてつかんでいなかったこともあり、こちらは本日改めて意見をいただきたいと思います。評価はBからDに直してあります。今後の方向性についても修正があり、学校サポート事業を進めながら学校図書館活動をにうスタッフの役割ということで、スタッフのものと意味と明確にして次の目標にしたいと考えています。10 ページサポートセンターの機能充実について、自己評価と今後の方向性のそれぞれの修正を加えてあります。サポートセンターの機能充実とその前の設置と意見が混同され、どちらがどういうことで機能充実のほうへ意見を持ってきた。後はサポートセンターの機能充実という具体的取り組みにも関わらず中央図書館の内容が入っていたりしたので、そちらは削除しました。11 ページ、読書情報を発信する子供向けコーナーの作成について、今後の方向性について修正します。子供向けのお薦めリストを公開していきたいというのを膨らませ、おすすりリストの公開とともにコーナーの中味の充実を図るという内容にさせていただきました。12 ページ、入学時における図書館資料案内の配布について、自己評価と今後の方向性について修正しました。来年度の入学時に向けて実施をするという内容の自己評価にしました。それができなかったという自己評価にしました。今後の方向性としては来年度はそれを行うという内容にしました。以上です。

望月参事～補足いたします。8 ページの 55 について、スタッフというのが学校図書館を具体的に担うスタッフと読書指導員と 2 つに分けてありました。こちらの方は前者を言ってる訳で、私どもの掲げた目標に対する取り組みが、前回読書指導員のことを言っていました。全く項目が違うものを目標にしてしまったという恥ずかしい話ですが、そういうことで直させていただきました。それではスタッフとは何かというと学校司書を指すかということと必ずしもそうではないと

というのが前回の策定会議の会議録とか、パブリックコメントの市の対応ということでも学校司書を指すのかということもまとめてある。学校図書館職員の配置についての記載は現下の学校の置かれた現状の中では明記するまでには至らない段階ですので、今後の課題とさせていただきますということで、スタッフは学校司書とは言わないけれども、しかし何らかの形で学校図書館を運営していくスタッフという形かというのは具体化はしないけれども何らかの形で必要だということで、第二次推進計画には書き込まれているということです。従って目標としては改めて仕切り直しとなって申し訳ありませんが、そういうスタッフについてサポート事業を実施しながらスタッフの具体像とか役割を検討していくということで、改めて目標とさせていただきます。

三浦会長～事務局の説明は終わりました。ご意見ご質問などありましたらお願いいたします。

1についてはいかがですか。

よろしいですか。では2・3は修正がありません。

4についてはいかがですか。

山崎委員～ICTを使ったサービスの充実というのが2～5くらいまでありますが、ICTを導入する場合、何のためにということが理解されないとそれに何故お金を出すかということが、今の時代は説明がつかなくなると思う。それを入れた方がサービスが改善するとか、内容が充実するとかがなくてはいけないと思います。書店会のリンクについてもリンクして何をするのか。相互作用を起こすことを、何をしようとするのかを課題整理するにしても、単に連結すればいいんじゃないかとすると議論がまとまらなくなってしまうという気がします。書店と図書館が連携するようなニーズというか、そういう素地があるということの説明の方がいいと思う。詳細は後で決めるにしても大きな方向性を明記した方がいいと思う。

望月参事～例えば、目的及び費用対効果を十分検討し、進めてほしいという形で委員の意見のところに追加させていただければと思います。

山崎委員～ICTを利用するのはそれなりの費用がかかります。それに税金を投入するので、十分な説明が必要で、特にコンピューター費用が金がかかりすぎるというのが自治体、企業で問題になっているので、そのことについて精査するという目標を決めて、それにならった使い方をするというのを明確にする方がいいと思う。

望月参事～そういう形にします。

三浦会長～5ページめについてはいかがですか。

山崎委員～インターネットによる情報提供の中味について、例えば何時から何時まで開館するということなのか、それとも図書館にこなくとも図書館の本を読めると

いう話なのか、どこまでやるというのを明確にした方がいいかと思う。

三浦会長～委員の意見ということで、バーチャル図書館ということまで立ち入っている
ので、情報提供だけでなくバーチャル図書館ということまで視野に入っている
ということだと思うが。

山崎委員～いま、国会図書館が直接サービスをするを考えている。バーチャル図書
館としてなので下手をすると二重投資ということになる。その時には国会図書
館では手に入らない、八王子固有の資料にしないと二重投資になる。国会図書
館と同じにやる必要があるかという問題がある。他で何をサービスしているか
を考えて、その中で八王子が何をやるべきかということのをされた方がいいと思
う。

望月参事～目的と費用対効果を精査して、十分検討していくというのを表記して、ここ
にもう一つインターネットを活用していく範囲を加えさせていただきたいと思
います。

三浦会長～6 ページ目はそのままです。

7 ページ目は取り組みと自己評価が修正されています。

ご意見はいかがですか。よろしいですか。

それでは8 ページ目は評価をCからDにし、取り組み自己評価については、
特にスタッフについては勘違いもあったということで文章も直しています。

ご意見がありましたらお願いします。

小林委員～小学校中学校と読書指導員が分けてあったが、そのままの方が良かったので
はないですか。

三浦会長～簡素化して書いたということですね。

望月参事～はい。実は目標で読書指導員の増加というのが、55番については目標その
ものではなかったもので、本当は記述すること自体おかしいかもしれないので、
できるだけ簡潔な表現で書きました。

斉木委員～スタッフ配置の推進のために何をしたのかというのがここからだ読み取
れなかった。

三浦会長～自己評価として、22年度はどういうことをやったのかということは、はっ
きり書いた方がいいのではないかとということですね。

望月参事～何もやらなかったということではないことを、まず言わなくてはなりません。
で、そのことを明確にするためには自己評価の表現が拡充を図られたというこ
とになると、やったみたいな表現になってしまうので、こここのところは目標の
ところにある読書指導員の増員を目標として掲げたが、学校図書館スタッフに
ついては読書指導員と区別していることからというようにさせていただいて、
なおかつ、この計画を作った時はおそらく学校図書館というのが視野に入っ
ていると思うのですが、ただ5年間の中では現実的ではないということでスタ

ップということで何らかの形にやっていきたいというのがあったようです。この計画の後ろに活性化の流れとして3つに分けてあり、構築期、拡張期、充実期があって、拡張期から充実期に初めてスタッフ配置に推進が出てきている。そういう意味で言うとスタッフそのものがこの中で具体的に示されているわけではないが、だけど何か必要だろうという計画というように捕えましたので、こういう形でしか表現しようがなかったと思っています。これを掲げることによって説明責任を持たされることになりまして、前に進めるということができると思います。

小林委員～55について、目標に対しての自己評価はあくまでもDではないと思う。目標に対しては達成しているのではないかと思う。

望月参事～55が学校図書館活動を担うスタッフの配置なんです。56に学校図書館読書指導員の拡充というのがある。55の具体的取り組みとして22年度の目標を掲げなければいけなかったのに、ここに書かれていることはやったが、そもそも55の取り組みはやってないので、それをやったとは言えないということです。

大橋委員～第二次計画をつくった時の議論の中で、本当は学校司書の配置までほしかったけれども、難しいだろう。だけれども学校図書館活動を担うスタッフというものが読書指導員というスタッフでいいと言い切れないので、それだけは納得できないということで、ボランティアとは違うスタッフを置くという一文を入れてもらった。なので、学校図書館活動を担う人の配置というときに読書指導員が増えたからOKという評価は違うのではないかと申し上げた。

三浦会長～事務局サイドでもその辺を鑑みてこういう表現になったと思います。

大橋委員～読書指導員の増とは違うということを申し上げた。

三浦会長～意見については今のことを書き込んでいただくということでよろしいですか。

一了承された一

9ページ目はいかがですか。取り組みと自己評価、今後の方向性、合わせて委員から前回聞けませんでしたので、意見をいただきたいと思います。

山崎委員～学校図書館データベース化となっているが、これはだれが作るのか。データベースの作成作業をどのような形で推進していく予定か。

草刈委員～業者に委託をしている。

山崎委員～作ったものの評価や品質管理はどなたが行うのか。

草刈委員～中央図書館のデータベースの枠の中に学校図書館のものも検索できるようにしますので、その部分は一緒に管理します。質についてまでは検討していないのが実際です。今は検索までなので、貸出システムまでは扱っていません。

山崎委員～最初に子供たちが接するデータなので、品質が高いものでなければいけない

と思います。図書館が好きになるかどうかの瀬戸際なんです。将来的には品質をチェックできる人を置く必要があると思います。子供たちに与える効果をチェックするためにも必要です。

中村館長～図書館流通センターに委託して突合作業をしています。基本的にTRCマークを活用すると聞いています。図書館もTRCを使っているので品質的には問題ないと思います。

山崎委員～検収もすると思うが、形式的なものでなく子供たちが使ったときにどんな使われ方をされるかという観点から責任を持ってみていくという人材が必要と思う。

草刈委員～どう活用されていくかというのは指導課の方で学校に伝えていかなくてはいけないと思いますし、すべての本をデータベース化されるわけではないので、いかに活用していくかというのが一つの課題になっていくのかなと思います。

小林委員～全部の本をデータベース化にして使いやすくなると思っていた。選択をその時点とするのかということと、マックスが決まっているのであればこの学校はこのくらいという振り分けをするのか。

草刈委員～整理が進んでいる学校はほぼデータ化されると思いますが、確約はできません。整理が進んでいない学校は、廃棄をするかどうかは学校が決めますが、優先順位として活用率の高い本とか、新しい本というものから作業をしています。最終的には古い本とかあまり手に取っていない本などはデータベース化する作業の対象外という扱いになります。

大橋委員～どれを入れるかというのは教育委員会と業者と一緒に話し合いをして、明らかに壊れている物は捨てるではなく、入力する優先順位の低いもので、内容の判断は学校で行い、確認を経て入力することになっている。学校の事情もあるので数だけで言えないが、教育センターも相談に乗るといえるのは心がけているので、十分なことはできないがそういう形で進めていく。

三浦会長～学校単位でできたものと中央館との間がつながるといえることか。

中村館長～まだ確定している話ではありませんが、図書館のサーバーに10万冊近くの学校図書館のデータベース化されたデータを入れるという話をしている。それが入った段階ではそれをどう活用していくか、画面をどうするかということになっていくと思うが、まだわからないが、将来的には図書館のサーバーに入ってくるという予定を持っている。

山崎委員～このデータを使えばどの範囲のものがわかるということが、検索する人が事前に理解することが大事だ。古いもの、利用頻度が低いもの、本が破損しているなどは含まれていないことを明確に利用者に伝え、それで運用するということが必要だと思う。

斉木委員～後から増えてきた本についてはどのように扱うのか。

草刈委員～TRCを通して買う本についてはシールが付いて納品されるがシステムの中にもどの程度入るかは今後決まります。

斉木委員～検討項目の中に入っているということによろしいですか。

三浦会長～今後蔵書は増えていくのでどうデータベース化をしていくのかということを検討してほしいですということですね。これを意見として入れていただくということになると思います。

斉木委員～古いデータが入っていると、新しいデータを入れるときに容量があるのか。

三浦会長～余裕は取っているはずだ。あるいはいつでも余白を増やせる体制をとるべく課題として考えておかなければいけない。

山崎委員～一般論としてですが、蓄積するデータに上限があるというのはいり得ないと思います。サーバーのメモリについてもソフト的にもありえない。あるとすれば作業をする人の人件費だと思います。

松葉委員～小P連の加盟校では学校の予算では足りなくて、PTA会費から補てんしている学校があり、一律に年間増える冊数は同じではないと思うので、メンテナンスの方はよくしてもらいたいと思います。

三浦会長～意見でよろしいですか。 了承された

望月参事～今後の方向性でデータベース化というのがあるんですが、65と別に66に☆1つで別の項目としてあります。今頂いた意見は聞き置くことにして、ここではデータベース化のことはカットさせていただいてよろしいでしょうか。混同して申し訳ありません。

三浦会長～10ページ目はいかがですか。

望月参事～データベース化ということで、言葉として出ているのが65の10ページ、10-2ページの方です。10-2の方の修正後のところに学校図書館のデータベース化という言葉が入っているので、この部分は削除します。もしよろしければセンターの設置については、これは設置しているからとりあえず意見がなくても基本的には機能充実に向けた意見になるかなと思っていますので、空欄であってもいいのかなと思います。

三浦会長～戻らしていただいて、9ページ目で学校サポートセンターの設置ということですね。図書館サポートセンターの設置というところで、学校図書館サポートセンターの機能充実を図っていくというところで今後の方向性は文章としては書かれているということになります。これについて委員の意見がどうかということになりますが、この部分ではもらっていませんでしたっけ。

田中館長～出た意見が機能充実の意見で、設置についてはもらっていません。

三浦会長～設置をしたんですよね。ですから具体的にということになれば充実を図ってほしいということになろうかと思いますが。

望月参事～基本的には65に移ってしまうということになるかと思います。

三浦会長～10と10-1につきまして、蔵書のデータベースというところは10-1の今後の方向性のところは学校図書館の蔵書データベースのところはカットさせていただきますが、この修正後の文章を含めましてなにかありましたらお伺いいたします。ここは特によろしいですか。

三浦会長～それでは11ページにつきましてホームページ等による情報発信ということで、公共図書館に置けるということですね。これにつきまして今後の方向性が修正されていますが、これについてはいかがですか。

斉木委員～充実を図っていくということですが、具体的にはどういうことをするのか。こういったホームページは他市でもたくさんあるので、そういうのをみて・・・。

三浦会長～現状で考えている方向性がありますか。

中村館長～4月からリニューアルして少しずつ整理をして使える機能を増やしています。いま7～8割くらいが大人向けのホームページが出ていますが、それがあ程度になったら子供のホームページについても情報を入れていきたいと思っています。その内容は図書館からのお知らせだけでなく、新刊リストとか、八王子の地域の情報を調べられるというのがありますが、できる限りもっと充実させていくことを考えています。他のホームページのいいところは八王子の子供たちが使えるようにとは考えていますが、まだ具体的にこういうのというのはありません。

斉木委員～方向性として子供たちに必要な情報を公開していくとか、使いやすい操作性の良いものにするとか具体的なものがあると本当にやるんだなというのが見えてくるが、アバウトに書かれるとさてどこまでやるんだろうという気がしてしまう。

三浦会長～これからと言っているのもう少し時間が必要なようです。他にはよろしいですか。

小林委員～9ページについて、委員の意見として4名のスタッフで設置して取り組んでいて現実がどうなのか分からない。人間が少ないとかいろんな検討をどこの場面とするのかなと思った。

三浦会長～ここは設置をしたというところまでです。10ページにどういうことをやっているというのが書かれているわけですね。108校と言えば当然現状の人数ではまだまだだと思います。心臓部ができたと段階という理解でよろしいと思います。これから一般人含め勉強していただき、各学校の図書室を充実していただく方向へ持って行っていただき、これからと思います。今後の方向性の中に順次皆さんの頭の中に入れておいていただいて出てくる資料等、中を協議していただければと思っています。

山崎委員～斉木委員が指摘したことについて、今後の方向性の中でおすすめリストが出てきますが、図書館のホームページを子供たちがアクセスすればどんどん広がっているような調べ物ができるという形でリンク集を図書館の中だけで解決するのではなく、図書館を経由していろんな世界へ広がっていくようなホームページにさせていただくように文言を修正していただけますでしょうか。リンクを活かしてより広範な世界に子供たちを導くようにするとか、いかがでしょうか。望月参事～先生のおっしゃったリンクに機能というのがキーワードになるとと思いますので、取り込んで一つ追加させていただきます。

山崎委員～お願いします。

三浦会長～12ページについて、小学校入学時に図書館利用案内の配布を行っていく。これについて自己評価と今後の方向性が訂正されていますが、これについて意見をお願いします。達成できなかったということは配布していないということですね。

田中館長～そうです。

三浦会長～修正後は入学時に合わせて配布をするようにしますという方向性でいるということですね。

田中館長～そうです。

三浦会長～それでは全体を通していかがですか。

山崎委員～政策評価のA B C Dというのは八王子市共通で使っているものでしょうか。望月参事～教育委員会の施策評価があり、その中で使っているものがA B C Dとなっており、教育基本法に基づいてだと思いますが、毎年度教育施策の計画をつくってそれを進行管理するという法律で定められているものがあって、八王子市とするとこれでまとめた。それに準じてこれでやっている。

山崎委員～私が考えたのはものすごく素朴な印象で、これをみるとAが全くない。Bは何かというと予定通り達成できたということです。要するに達成できれば行政評価としてOKなわけです。はたしてそれ以上必ず何かやらなければいけないかというのが疑問というか、政策評価として無理があるような気がする。達成すればAで目標を上回るようなものはSとかそういう感じだと思う。そうしないとほとんど目標を達成しないような印象がある。努力してやっているのに市民がみてAがないというのに心配な気がした。もう少し工夫した方がいいような気がする。

三浦会長～必ずしもB評価ばかりにしなくてもいいという意見も頂いたので、どこかに明記しておいてもいいのではないのでしょうか。

他にはよろしいでしょうか。これは公表されますので、皆様のご了承をいただきたいと思います。

了承があった。

三浦会長～それでは議題2 平成23年度読書のまち八王子推進計画の取り組み目標等に関する意見ということで、3の資料を説明願います。

田中館長～平成23年度の取り組み目標につきまして、平成22年度の点検評価で今後の方向性を修正しましたので、23年度の取り組み目標にも修正が出ましたので、議題として提出したものです。おもなものは、1の地区図書室の分室化については、北野分室の課題等の整理、候補地の選定を課題・目標としております。28、社会福祉施設等の出張図書館につきましては、新規施設での図書館ボランティアと図書館員との協働による開催などを取り組み目標としております。これにつきましては、報告事項で再度報告いたします。65、学校サポート事業の機能充実について、引き続きとしょえもんの発行、学校図書館重点校への巡回や研修会の実施と図書館との連携を目標としています。なお、目標欄の65の下の点、データベースのところは先ほどの経緯もあり削除をお願いいたします。

三浦会長～意見はいかがですか。

山崎委員～今のところではないのですが、メールマガジンのところですが、図書館のニュース等を知らせるためのものと思いますが、既に館報、ホームページも開設していますが、そこへメールマガジンをするのは何にかそれでは不十分な点があつてこれを始められるのか、どういう効果を狙って始められるのか。かなり労力がかかると思うが。

中村館長～館報は3カ月に一度ということなので、何か情報を伝えたいときにメールマガジンなどを活用したいと考えていました。情報発信をする手段としてメールマガジンを考えています。

山崎委員～館報は紙なのでほとんどの人に行くと思うが、メールマガジンは電子化の環境がない人には情報が届かない可能性があると思うが、どう考えますか。

中村館長～ホームページも残していこうと思っていますが、ホームページへアクセスできない人もいますので、できる限り館内掲示もしますが、内容をどうすればいいかという大きい課題と思います。ただ、アクセスする機能を持たない方についても十分考えていきたいと思えます。

山崎委員～館報を補う意味でということですね。それは非常に大事だと思います。2つが独立してしまうと重複して無駄が出てしまうと思います。編集体制等常駐化してやれば効果が出るように思います。

齊木委員～23年度の取り組み目標と書いてあるので、平成24年3月31日までに達成するものということでよろしいですか。市民の目線でいうと、いつまでに、だれが、何をどうするかというのが3月までにできるかというイメージを一般の企業にいる人間からすると感じてしまう。急に変わるとは言えないし、それが普通というとなんとも言えないが、5カ月たって今年度といわれても・・・。

三浦会長～わかりました。11月にまた次の会議ですので、順次報告をしていただきながら進めていく形で了解を賜りたいと思います。

望月参事～8月に見直すという形ではありませんで、既に目標をたてていて5月に諮りましたが、22年度の評価をフィードバックしたものをやっていくということで、軌道修正は常にしていくものと思っていますので今日ご意見を頂ければ軌道修正していこうということです。もうひとつ、進行管理表を四半期ごとに持っている。具体的に月ごとの進行管理表をつくってしまして、それはここに出しにくいというのがあるが、ここでは年間の目標を確認いただきたいと思っています。

松葉委員～103について、入学時に資料をいただいても見ないのでゴミになってしまうので、どうせ案内配布するなら子供が図書館を利用したいと思う適切な時期に配布するのがいいと思います。

三浦会長～先ほど了承をいただいていますので、了承をいただいたうえで24年度の新学期にやりますということです、そのように理解いただきたいと思っています。現状でやるという計画を進めているようですので、やったあとどうだったのかという検討もしてほしいというのが23年度の目標等の中でのことと思うので、1回もやってないことですのでやるかどうかを含めてご理解をいただいたうえで進めていきたいと思っています。しかしながら今後の方向性のところにもかけないということになってしまいますので、やってみたくて評価を賜りたいと思います。

山崎委員～松葉委員のおっしゃることはもつともで、大学でもオリエンテーションなるものを行っているがあまり効果があると思いません。レポートなど目標があるときに案内するのがいいと思うが、提案として配布は決まっているので、むしろ内容を考えていただいて、利用案内というのが良くない気がする。図書館はどんなところなんだ、本を読むのはどういうことなんだというレベルの基礎的なインパクトを与えるようなことを考えたらどうでしょうか。図書館は楽しいところ、夢が広がる場所というのわかるような資料をつくっていただけたら、この予算が生きるのではないのでしょうか。

草刈委員～タイトルに縛られてしまいますが、小学校3年生で配ればいいと思います。3年生1学期社会科で地域の公共施設を学びます。なぜ1年生なのかと思う。3年生は絶対学習で使います。学校でも使うし自分で行く子も増えてくると思います。でも1年生の入学時と書いてあれば入学時に配らないといけないのかなと、この縛りが厳しいなと思っています。その辺も柔軟に対応できればいいなと思います。

望月参事～推進計画で実行して2年目ですし、そういう課題があるとすれば利用案内ということで場所を示すという観念にとらわれていると硬直しますが、イメージ

を膨らませて1回やってみて、どうしても課題があるとなればこの会で素案をつくっていくということでとらえていてくれればと思います。

三浦会長～23年度につきましてはよろしいですか。議題2につきましては了承していただきました。

傍聴人が入る

三浦会長～それでは、報告事項1「出張図書館について」事務局から説明をお願いします。

事務局（大宮中央図書館主査）～老人ホームに入居されている方に本に触れられる機会をつくろうと平成22年度から試行としてSアミーユという老人ホームに団体貸し出しを始めました。今年度は取り組みの輪を広げようということで、入居者の読書意欲を喚起するため、読み聞かせを行っている図書館ボランティアの会の協力を得て、朗読会を合わせて出張図書館で行うという取り組みに変えました。今後予定しているのがエスアミュー八王子元本郷、ここで19日実施した美山苑、8月31日予定している多摩軽費老人ホームで実施していきたいと思います。19日実施した美山苑について、報告します。8月19日13時30分から15時で実施しました。図書貸し出しと朗読会を実施し、美山苑に貸し出した図書170冊持参して16名の方が借りていただいた。毎週土曜日にボランティアの人たちが貸し出すことになる。朗読会は35名の方が参加しました。3か月が団体貸し出しの期限なので、3カ月をめどに定期的の実施していきたい。

斉木委員～前回、本だけでどうかという意見があったと思いますが、すぐに実行していただいたということに敬意を表します。ありがとうございました。3施設が限度かもしれませんが、ボランティアの人もやりがいを感じている人もいると思うので、入居者もいきいきとしたきっかけになったのではないかと思います。この輪が広がり、年を重ねても本に親しむ環境をつくっていただけたらと思います。ありがとうございました。

三浦会長～システムティックな形でやっているのは、全国的な例はあるのですか。

望月参事～区では1つ墨田区、あと武蔵野市がやっています。介護特別養護老人ホームと種類があるが、入居している人の体の具合が違い、養護老人ホームであれば体が動いて本を見ることができると、特養になると施設の人が本当に心配していた。市内の養護老人ホームが6つあり、全部カバーする予定です。

三浦会長～よろしいでしょうか。それでは、報告事項2「読書感想画コンクールの実施について」事務局から説明をお願いします。

生涯学習センター図書館高橋主査～小学校1・2・3年の低学年の部、4・5・6年の

高学年の部、中学の部という3部で、募集期間は8月22日から9月9日までです。応募は未発表のオリジナル作品で、本を読んで自分が感じたことを絵に表していただくということです。1次審査は図書館職員で行い、2次審査は小中学校の先生にお願いし、教育長を審査委員長とした最終審査で、読書のまちの委員にも数名審査員となっただき、最終の賞を決めたいと思っています。各部門とも最優秀賞1点、優秀賞3点、入選5点以内で審査を行います。表彰式は11月3日に行い、展示は八王子駅南口総合事務所の多目的ホールで10月28日から11月6日まで行います。

山崎委員～著作権について、2年間に限って八王子へとあるが、入選作をホームページで見られるようになっているんですか。

生涯学習センター図書館高橋主査～ホームページが新システムで今は見られませんが、第3回目から毎年ホームページで公表しています。

山崎委員～それが2年間ということですか。

生涯学習センター図書館高橋主査～実は国際交流課と一緒に展示している関係で海外へも行くかもしれないということがあり、そういうことを含めて2年間とした。

山崎委員～わかりました。著作権はややこしいので慎重にやっていただいた方がよいと思います。

木内委員～画材について画用紙に油絵の具で描くというのは経験がないが、キャンバスを使ってもよいのか。それとパソコンを使って描いて画用紙に貼って出すというのはどうですか。

生涯学習センター図書館高橋主査～自分で書いたもので、画用紙としている。

木内委員～色紙を切って貼ったものはどうか。

中村館長～今までもあったが、表現は自由です。

草刈委員～いい取り組みでもっと進んでくれればよいと思っています。応募数はいくつくらいですか。

生涯学習センター図書館高橋主査～昨年は767点ありました。

草刈委員～環境政策課でやっている八王子の地下駐車場のところでやっているのは、学校と連携をとってから一気に数が増えてきた。広く大勢の人が描くというのはより学校と連携をとって、どんなものを題材としてどんなものを描くかというもっと見ごたえのあるものになると思うので、学校と連携を取ったらいかがでしょうか。

三浦会長～これについてはコンクールで質を求めている部分もあるので、一般的にすべて公開するものとちょっと違うと思います。

望月参事～今年から小教研、中教研の先生方に審査に加わってもらう。初めて学校教育と連携することになりました。そういうことで取り組みを進めていければよいと思っています。

中央図書館大宮主査～パソコンをお持ちでない方が利用状況の確認や貸し出し延長、予約資料を確認するために、電話で確認できるというサービスを7月26日から開始しました。7日間で101件のアクセスがありました。8月は22日間で101件、1日当たり5件のアクセス件数になっています。

大橋委員～書名まで言うのですか。

中央館大宮主査～はい

斉木委員～いくらくらい費用がかかるんですか。

中村館長～システムを取り入れるときに機械自体を購入している。ランニングコストは電話線の使用料2回戦程度だと思います。

斉木委員～1日5件ではさびしいと思います。アピールをもっとしてほしいと思います。

小林委員～2回線ということですが、増えた場合は増やすことができるのですか。

望月参事～基本的にパソコンを使えない方で、時間外ということでも少ないかもしれませんが、同じサービスをしていかなければいけないと思います。状況を見ながら、例えばなくすということも考えなければいけないと思う。

三浦会長～よろしいでしょうか。それでは報告事項4「南口総合事務所内返却ボックスの設置について」事務局から説明をお願いします。

事務局（樋口中央図書館主査）～利用者の利便性を考慮し、八王子駅南口総合事務所に7月1日から返却ボックスを設置した。ホームページと7月1日の広報で周知し、回収については試行ということで月・水・金の午後に回収している。実績は1日に30冊くらいで、回収については様子を見て検討していきたい。

三浦会長～説明は終わりました。ご意見、ご質問などありましたらお願いします。

山崎委員～返却日はいつですか。

事務局（樋口中央図書館主査）～実際には回収した日になり、市民にはデータが反映されるまで時間がかかるとお知らせしています。

大橋委員～今後事務所とかに置いていく計画がありますか。

望月参事～費用対効果という問題も出てくると思いますが、しばらくやらせていただいて、今後検討してみたい。

三浦会長～よろしいでしょうか。それでは報告事項5「学校図書館のデータベース化について」草刈委員から説明をお願いします。

草刈委員～計画的に何年でやっていきますということではなく、今年度ここで、予算でできるところまで進めます。その先はこれから検討していききたいところが現状です。期間としては、今年度中に全校のデータベース化を行うが、順番に7つのグループに分けてやっていきますので、2週間程度かけて行っています。

三浦会長～説明は終わりました。ご意見、ご質問などありましたらお願いします。

斉木委員～お金が来たからこれをやるというよりも、こうやっていきたいというビジョ

ンがあると夢を持っていけるが、先を見通したことを聞けると嬉しいです。

草刈委員～今後は今の額より少なくなるが毎年かかってくる。継続するということを主張する必要があり、確約できないというのはその辺に理由がある。

斉木委員～既にデータベース化していた小学校があると思うがその扱いはどうですか。

草刈委員～別物なのでやりなおさざるを得ないが、今までやってきたので他と同じで0というわけにはいかないの、いい道筋をつけていきたい。

小林委員～他校と有効活用すべく考えていただけると思うが、計画はどうですか。

草刈委員～他校のを利用するときに誰が運んでくれるのか、他校のニーズに感じられるのかといった課題がまだまだある。中央図書館とつながる意味は大きいと思う。新たに何かするとなると貸出しのシステムまでできれば入れていきたいという希望はある。後お金を払いつづけて検索だけしていくという考えはないです。

山崎委員～大学間でどう運用するかを取り決め、どう運ぶかなどやはり相談する組織がないと、相互乗り入れはやはり難しい。そういう体制もやはりやっていくと思います。

三浦会長～よろしいでしょうか。それでは報告事項6「平成22年度図書館統計について」事務局から説明をお願いします。

事務局（樋口中央図書館主査）～平成22年度開館日数1,528日、129日減、入館者数70,179人の減、貸し出し冊数130,141冊、リクエスト26,097件の減となっており、震災のことが大きな原因となっている。3月13日から16日の4日間夜間開館の中止、17日から21日までシステム更新の臨時休館をして、3月だけで15日臨時休館としている。北野分室は大規模工事により9月1日から12月28日まで臨時休館したことにより大幅に減っている。平成23年度については、4月1日から6月23日まで夜間開館の中止を継続している。6月13日から全館で輪番休館しており6月までの実績を比べると入館者数、貸し出し冊数が減になっているが、リクエストは6月1日から30冊に拡大したことにより増となっている。

三浦会長～説明は終わりました。ご意見、ご質問などありましたらお願いします。

山崎委員～図書館ホームページがどれだけアクセスがあったかという統計はあるのか。

事務局（樋口中央図書館主査）～アクセスは取っていません。

山崎委員～積極的に図書館に行く代わりに家で用を足すので、むしろ積極的な利用者で、入館者と同じくらい価値があり、そういうものも統計に反映していった方がよいと思う。

事務局（中村生涯学習センター図書館長）～新しいシステムはカウンターが入っているので今後は取れると思う。

三浦会長～よろしいでしょうか。以上で報告事項は終わりました。

三浦会長～他になれば、次回日程についてはいかがでしょうか。

事務局（田中川口図書館長）～11月22日あたりではいかがでしょうか・・・（日程調整が行われた）

三浦会長～それでは、平成23年度第3回の会議は11月22日に開催いたします。

以上で、本日の会議を終了いたします。長時間のご審議をありがとうございました。